

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	シーティング実践のための教育課題				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部 社会福祉学科・准教授	氏名	木林 身江子
	研究分担者	所属・職名	短期大学部 社会福祉学科・助教	氏名	大石 桂子
		所属・職名	短期大学部 社会福祉学科・非常勤講師	氏名	秋山 みゆき
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	短期大学部 社会福祉学科・准教授	氏名	木林 身江子

講演題目	高齢者介護におけるシーティングの実践および教育のための記録のあり方に関する検討
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【研究の目的】 シーティングは、体幹機能や座位保持機能が低下した高齢者が、個々の望む活動や参加を実現し自立を促すために椅子や車椅子に快適に座るための支援である。シーティングにより適切な座位保持が可能になったことで食事動作が自立したり、誤嚥、拘縮、変形、褥瘡などの二次障害の予防に効果があることは既の実証されており、寝たきり予防、自立支援、社会参加、生活の質向上、尊厳の回復等につながっている。しかし、介護現場においてその知識・技術の普及は進んでいないのが現状である。</p> <p>そこで、本研究では、介護職がシーティング学習を効率的に進めるためにはどのような学習材料を使用し、どのような教育の変革が必要かについて考究する。具体的には、セラピストと連携し、記録様式であるシーティング連携（Seating Collaboration）マトリクス（以下、SCマトリクス）を活用して事例検討を実施する。SCマトリクスは、対象者の状態像を症状別・時系列的・客観的に短時間で評価・把握することを目的に考案され、症状の改善や重度化のプロセスを確認・予測することができるようになっている。これを活用したシーティングの事例検討を通して、シーティング実践及び教育のための記録のあり方を検討する。</p> <p>【成果】 対象施設2施設（特別養護老人ホーム）におけるシーティング実践事例について、勉強会、中間報告会およびセラピストとの相談会を開催した。約半年間のシーティング事例発表では、両施設から全5事例が報告された。SCマトリクスへの記入により、シーティングと心身の状態および生活の状態など利用者の状態像が可視化されたこと、経過の好転や後退からケアを振り返ることで様々な気づきを得たこと、介護職と他職種との連携が活発化したこと等が成果として報告された。しかし、一方でSCマトリクスへの記入の困難さも指摘され、実践の過程でSCマトリクスへの記入がしやすいように施設独自で新たな様式が生み出されるなど、取り組みに工夫もみられた。</p> <p>【今後の展望】 今回の試みを振り返ってアンケート調査を実施した。その結果を分析し、SCマトリクス活用の効果と記入上の課題を明らかにする。また、事例検討の継続実施と介護施設へのヒアリング調査等実施し、介護現場のシーティング実践および教育のための記録方法を検討する。</p>